



IT 羅針盤

“ヤラれても大丈夫な環境”で身代金を回避

バックアップを活用する ランサム対策製品続々

文/仙石 誠

勢

いが衰えないランサムウェア対策に、データバックアップの分野から新しい対策ソフトが相次いで登場した。

ランサムウェアとは、パソコン内に密かに侵入し、ユーザーのファイルを勝手に暗号化する悪質なプログラムのこと。これによりファイルはロックされ、元に戻すには金を払えと要求される(図1)。この要求が身代金(ランサム)に当たるため、「ランサムウェア」といわれる。

従来のセキュリティソフトも、暗号プログラムの検出はもろろん、暗号化が始まった瞬間に実行する、リアルタイムなファイル保護といった対策を取っているが、それならバックアップソフトをメインで手がけるメーカーが、次々とランサムウェア対策機能を打ち出してきた。例えば、バックアップソフトの定番「トゥルーイメージ」シリーズの最新版「トゥルーイメージ 2017 ニュージェネレーション」(アクロニス・ジャパン)や、「ファイナル丸ごとバックアップ」のAOSデータが発売した「ファイナルランサムディフェンダー」だ(図2)。

本来のバックアップ機能に加え、ランサムウェアによる暗号

ユーザーのファイルを暗号化して身代金を要求

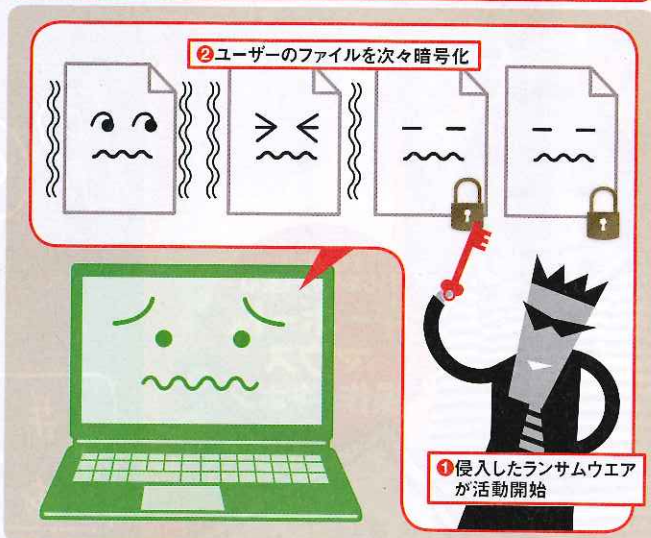
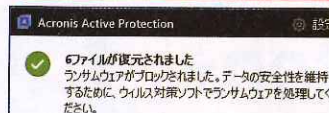
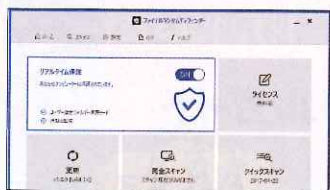


図1 ここ数年、猛威を振るっている「ランサム(身代金)ウェア」。ユーザーのファイルを勝手に暗号化し(①②)、元に戻すときに身代金を要求する

バックアップソフトが機能強化



True Image
2017 New Generation
●アクロニス・ジャパン
<http://www.acronis.com/ja-jp/>
9980円【注1】



**ファイナルランサム
ディフェンダー**
●AOSデータ
<http://www.aosdata.co.jp/>
2980円(税別)【注2】

図2 定番のセキュリティソフトがランサムウェア対策を進める中、バックアップソフトを手がける企業もこの分野に乗り出してきた

プログラムの動作を検出する機能を備えており、ランサムウェアの暗号処理が終わると、瞬時にバックアップから被害に遭ったファイルを復元する(図3)。

ランサムウェアの動作を阻止するよりも、ファイルを取り戻すことを優先しているのが特徴だ。ランサムウェアの動作と同時にファイルをバックアップする

機能の場合、高速に暗号化されると追いつかないことも懸念される。その点、あらかじめファイルをバックアップしてあれば、より安心できるというわけだ。

あらかじめ用意したバックアップから暗号化されたファイルを瞬時に復元

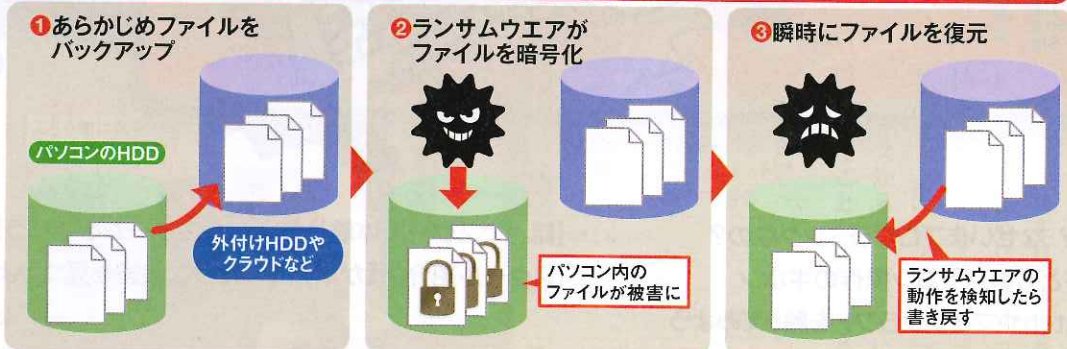


図3 元来がバックアップソフトのため、重要なデータは外付けハードディスクやクラウドストレージに保存済み。もしランサムウェアに侵入され、重要なファイルが被害に遭っても、バックアップから瞬時にファイルを復元できる

【注1】1台1年版。1テラのクラウドストレージ利用権が付属
【注2】1ライセンス3年版